



2面 消防団員募集・第3回ツール・ド・とちぎ  
 目次 3面 県からのお知らせ ほか  
 4面 吹き竹・なるほどとちぎ ほか

編集・発行 栃木県広報課 平成31(2019)年2月3日発行  
 〒320-8501 宇都宮市鳩田1-1-20  
 ☎028-623-2192 FAX 028-623-2160  
 栃木県のホームページ <http://www.pref.tochigi.lg.jp/>  
 毎月第1日曜発行(次回は3/3発行)

## 園芸大国とちぎ を目指して

いちごや生乳、米などの農作物の生産が盛んな栃木県。中でも成長を続けているのが、野菜・果物・花卉といった園芸作物です。そのため県では、園芸の振興をとちぎの農業が成長するための重要な施策と捉え、「園芸大国とちぎづくり」推進方針を策定し、その推進に取り組んでいます。



### 自身の就農をきっかけに水田でのネギ栽培を開始

米農家 篠原 由拓さん(佐野市)

#### Q ネギ栽培を始めた理由を教えてください

米をはじめ、いくつかの作物を家族で栽培しているのですが、もともとネギ栽培には父が関心を持っていました。そこに私が就農することになり、せっかくだから私を中心に取り組んでみようということになりました。

ネギは秋から冬にかけて収穫するため、秋口に稲やハトムギ、大豆の収穫と麦まきが終わって手が空く時期を活用できることや、農業機械を有効活用できることが水田での栽培に最適だったのです。

#### Q 水田を活用して栽培する利点・課題は何ですか？

利点は、ネギを収穫した後水田に戻すことで土壌が原因となる病気にかかりにくくなり、高品質なネギを生産できることです。

また、畑と水田では生える雑草が違うため、交互に栽培することで除草の手間を軽減することができます。

課題は排水対策です。ネギ栽培には水はけの良い土壌が必要なので、水田を丁寧に耕して軟らかくするなど気を使っています。

#### Q これからの目標を教えてください

ネギは栽培面積当たりの収益が高いので、人手を確保してもっと規模を拡大していきたいと考えています。また、地域のイベントで農業機械の試乗体験を開催するなど、もっと一般の方に農業に親んでもらえる機会を作り、農業のイメージアップをしていきたいですね。



ネギの生育状態を確認する篠原さん

### 栃木県園芸の目指す姿

栃木県の園芸は、恵まれた気候と首都圏に位置する地理的優位性や、県が育成した新品種、高品質な園芸作物を生産する優れた技術を生かして成長してきました。

一方で本県には、農道や用排水路、区画の整備が進んだ水田や、首都圏向けに加工食品を生産する企業が多数立地する優位性など、さらなる成長を見込める可能性があります。県では、培ってきた技術の向上に加え、これを生かすことで、高度な施設園芸と大規模な露地野菜産地が各地に広がる「園芸大国とちぎ」を目指しています。

**目標** 2025年度の園芸産出額を1,300億円に!

### 水田を生かした土地利用型園芸の生産拡大

栃木県は農地の約8割を水田が占めていますが、近年、食生活の多様化などにより米の需要は減少しています。そのため県では、水田での露地野菜生産を推進することでその対応を図っています。

今年度からは、水田を活用して露地野菜の栽培に取り組む事業者を支援する「産地づくりモデル地域育成事業」を開始。モデル地域に選ばれた事業者には、定植や収穫などへの農業機械の導入を助成することで、生産体制の大規模化や作業の省力化を支援しています。



水田から転換した畑でのネギの収穫

### 新たな生産・流通体制の構築

近年、高齢化や一人世帯の増加などで、総菜や冷凍食品等に使用される加工・業務用野菜のニーズが増加しています。そうした需要への対応を目的に、県では、野菜産地と食品企業が一定範囲に集積した生産・流通体制「野菜クラスター」の構築を目指しています。

その達成に向け、食品企業と生産者のマッチング商談会の開催や、産地指導者向け野菜クラスター育成マニュアルの作成などを行っています。

### 将来の担い手の育成

栃木県の園芸が成長していくには、土地利用型園芸と加工・業務用野菜生産の拡大が必要であり、それらを実践できる担い手の育成も重要です。

県では、農業大学校本科での教育の充実を図るとともに、基礎的な栽培技術や農業経営の知識を学ぶ「とちぎ農業未来塾」を開講するなど、新規就農者の確保・育成に努めています。また、土地利用型園芸の導入・生産拡大に取り組む農業者を増やすため、高度なノウハウを持つ先進地の農業者等による講習会の開催や、販路の紹介などの各種支援に取り組んでいます。

### 優れた農業経営者を育成 栃木県農業大学校農業経営学科(宇都宮市)

農業大学校では、「園芸大国とちぎ」の新たな担い手の育成を目指し、同校の水田を活用した収益性の高い露地野菜の栽培などを、教育内容に取り入れています。

平成29年からは、種まきから収穫まで機械による一貫した作業体系が確立しており、今後の生産量拡大が期待されるタマネギ栽培の授業を開始しました。授業の中では、「栃木県農業機械教育・研修連携協定」を結ぶJA全農とちぎから定植機などの農機を借り受け、水田での実用的な栽培方法を検証するなど、学生が卒業後すぐに実践できる専門知識・技術の習得を中心に指導を行っています。



全農とちぎの職員から定植機の操作方法を学ぶ学生



同校水田へのタマネギ苗の植え付け

### 食品企業と連携して加工用サツマイモを生産

宇都宮北西部営農会さつまいも生産部代表 小野口 勝仁さん(宇都宮市)

生産部に所属する20人ほどで、休耕田や耕作放棄地を利用して生産しています。収穫後は食品加工業者の市内にある倉庫へ運びますが、すぐ近くにあるため輸送コストを抑えられるのがいいですね。納品にも組合員全員で行けるため、先方とも意思疎通がしやすいです。また、加工業者とは生産前に価格などを取り決めているため、相場が変動しやすい市場出荷に比べ、安定した収益が得られるのもありがたいです。

今後、生産量をもっと増やしていくことで、この地域を一つの産地として盛り上げていきたいですね。



サツマイモの収穫風景



収穫したサツマイモと、それを使用した加工商品

